

授業科目名	体育科教育法特講		配当年次	1・2
担当教員			単位数	2
ディプロマポリシーとの関連性	② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。			
授業概要		授業計画(テーマ)		
<p>学習指導要領の改訂が近々に迫っている。今回の改定では、アクティブラーニングが強調され、体育科教育の大きな転換期を迎えたという指摘もある。</p> <p>そこで本授業では、模範的あるいは先鋭的な体育授業の実践例(ビデオ)に基づき、それぞれのねらいや課題等について検証したい。さらに、学外授業として、現職教職員の各種研修会等にも参加し、より実践的な体育科教育に踏み込みたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 体育の新しい方向についての総括 2. ビデオ:原田隆史式「走り幅跳び」授業の検証 3. ビデオ:原田隆史式「バレーボール」授業の検証 4. ビデオ:原田隆史式「バスケットボール」授業の検証 5. ビデオ:下野六郎式「スゴい体育」の検証 6. ビデオ:JACOT式「多様な動きづくり」の検証 7. ビデオ:JACOT式「コーディネーション運動」の検証 8. ビデオ:JACOT式「コーディネーション運動」の検証 9. ビデオ:「陸上競技:選択制授業」の検証 		
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 10. ビデオ:「剣道」授業の検証 11. ビデオ:「ダンス」授業の検証 12. 13. 学外授業 学外で開催されている現職教職員対象の各種研修会に参加 14. 15. まとめ及び評価 		
<p>・学習指導要領が求めている体育の方向性について説明することができ、さらに、それらを具体的な形で示すことができる。</p>				
受講・学習上のアドバイス		評価方法		
<p>・主として、保健体育科教員を目指す者のための授業とするが、体育領域にとどまらず、広い視野への興味関心を持ちつつ取り組んでほしい。</p> <p>・他科目の「武道・スポーツマネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」では実際の教育現場における高度な教育機会や関連する活動の企画運等を体験することができるので、併せての履修が望まれる。</p> <p>・事前学習(2h)⇒「保健体育学習指導要領(中学校・高等学校)」の精読</p> <p>・事後学習(2h)⇒「保健体育学習指導要領解説(中学校・高等学校)」の精読</p>		評価項目	割合	評価基準等
		試験	0%	
		レポート	50%	授業計画書の作成
		平常点	50%	毎授業の中での取り組み姿勢(積極性、発言、質疑応答)
教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考)		参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考)		
必要に応じて資料を配布する。		教師を目指す学生必携 保健体育科教育法 杉山重利ら編、大修館書店、978-4-469-26692-4		
その他				
授業形態:単独				